

2016年度 第1回網走地区サッカー協会審判員研修会 【報告】

- (1) 目的 ・審判員の審判技術強化ならびに審判員としての資質の向上をし、地区の審判レベル向上を図る。
- (2) 日時 2016年7月3日(日)
- (3) 設定大会 オホーツク中体連サッカー大会
- (4) 会場 実技 北見モイワスポーツワールド
理論 サントライ北見[会議室]
- (5) 講師 安藤 浩二 氏
- (6) 参加人数 5名
- (7) 研修内容 ①審判実技
…主審、副審、第4の審判員での実技、審判団・インストラクターとの反省
②審判理論
…実技研修での事象交流
…映像による判定基準の確認
- (8) 研修の成果
- ①審判実技 ○各審判員が主審・副審・第4審判を担当することを基本として行った。担当試合終了後には反省会を行い、各自の今後の課題等を確認した。
○受講生どうしで意見交流し合いながら研修を進め、考えを深めることができた。
- ②審判理論 ○実技での事象交流

主に「主審・副審」の協力について研修を深めた。

1. タッチライン際でのボールの奪い合い直後のアウトオブプレーの判定
⇒非常に見づらい場合がある。差し違いないよう、試合前の打ち合わせで確認をしておくのが良い。
2. 副審が行うファールの援助
⇒懲戒罰の有無について、互いにコミュニケーションを取れるよう、打ち合わせでの確認が必要である。主審、副審で差異がある場合、プレーを再開させないようにした上で確認をするのが良い。
3. 副審のフラッグアップ(オフサイド)の見落としを防ぐ
⇒主審は、常に副審とボール(争点)を挟めるように身体の向きに注意する。
⇒例えば、ディフェンダーが大きくクリアしても、その直後に起き得るファール(アフターファール)や副審のフラッグアップを見逃さないように留意して次のポジションに移るのが良い。

(9) 全体を通して

- ・ 1日日程という短い時間ではあるが、判定基準を確認したり、事象に対する対処方法を研修することにより、実りある研修会になった。
- ・ 今回はユース(U18)審判員も参加し、中学生の試合をしっかりとコントロールできていた。今後も若い審判員が活躍できる環境を整えていきたい。

